

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3292200049		
法人名	社会福祉法人 高田会		
事業所名	隠岐の島町認知症高齢者グループホームみのりの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町都万2472-3		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が、その人の有する能力に応じて自立した日常生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な環境でゆっくりと時間が流れる中に生まれ育った利用者が、今までの趣味や習慣等の生活を変えることなく継続して行えるように地域の理解や協力を得てその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。法人の行事、七夕祭、盆踊り、お相撲さんとの交流会や季節に合わせた花見、祭り、遠足等に出掛けたり、希望で買い物や外出に出掛けた時に馴染みの友人や知人に会うこともあり、外出支援を大切にしながら取り組んでいる。重度化に対応しながら職員は日々の支援の中で模索し、より良い支援が出来るよう話し合い取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会、ミーティング時に話し合い、その人らしく出来る事をしてもらえるように援助を心がけている。	会議や研修会、ミーティングで、利用者本位の過ごし方が支援出来るよう話し合い、理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歌や踊りのボランティアの来所時、近所の方にも声を掛けて、一緒に見て貰っている。又、祭りの見学、ウルトラマラソンの応援を地域の方と一緒にしている。	法人の年間行事予定を利用し緒行事に参加したり、事業所独自に民謡、踊り等のボランティアの来訪、地区の祭りに出かけたり、マラソンを地域の人と一緒に応援する等交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の交流会や研修などある時、家族の方や職員の知り合い等に参加の案内を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の催しの日時を聞き参加につなげている。又利用者の好きな民謡のテープを頂いた。	利用者の活動状況や事業所の取り組みを伝えて参加者からの意見、助言、提案等をサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隣接する町の建物の取り壊しの際には、話し合いに参加し意見を伝えた。改善してもらえた。	日頃より行政と協力関係を築きながら連絡、相談等している。担当者も様子伺いによく立ち寄ってくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回法人で身体拘束の会があり、主任が参加し他職員に報告し話しあっている。	毎月の身体拘束委員会、法人の研修会に参加し拘束をしないケアに努めている。日頃より一人ひとりをしっかり見て気付ノートを使い共有、確認し合い支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	H28年9月に高齢者虐待の施設内研修あり、1年に1回研修あり参加している。その内容等の話し合い職員間であり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を受けている利用者いて、社協さんの訪問あり活用している。成年後見制度を利用していた利用者の方もいて司法書士の方の訪問あった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には利用者家族に説明し理解したうえで記名捺印してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に日頃の様子を伝え意見や要望はないか尋ね、相談しながら支援している。	面会時に日頃の様子を伝えたり要望、意見を聞いている。遠方の家族には電話や便りで行事、研修等の案内をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や日頃のミーティング時に意見や提案を話す場面を作って検討し実践している。	毎日の業務の中で言い合える関係作りをしている。必要があれば職員会議で話し合い検討をして取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に年2回雇用通知書を渡して話を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、島内での研修参加を呼び掛け参加してもらっている。認知症の研修参加者が職員会で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会あり、他のGHの職員と交流をはかり、話し合いを参考にして職場で取り入れている事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人よりアセスメントを聞き取り調査しケアプランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも聞きとり調査しアセスメントしケアプランに取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作り支援開始、後1月毎にモニタリングを行い検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る利用者の方と食事の盛り付け、洗濯物干したたみ又は草抜きなど職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り様子を説明し外泊をしている利用者の方もいる。必要に応じて、電話で家族と利用者の方が話をしたり、面会や外出の依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのデイサービスに訪問したり、地区の催しの見学に出掛け、知り合いや親類の方と会いお話しする機会を作っている。	文化祭や地区の催し、祭りに出かけたり、スーパーでの買い物等で知人や親戚に会うこともあり、利用者が生き生きと生活出来るように関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声掛けをし洗濯物を利用者同士でたんだりして会話がはずんだりする。また、朝の掃除の時にも出来る方に働きかけて一緒に行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の施設入所先に訪問し面会している。また、県外に行かれた方や家族や本人から連絡あり、対応し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望時、家族と連絡をとり話し合っ希望に沿うようにしている。又外出希望時、ドライブ、買物に出掛けている。	ゆとりを持ちゆつくりと関り、何気ない会話の中から聞き出した情報を共有し、本人の今したいことにつながるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅サービス利用されている方は紹介状を頂き情報を得たり、本人から聞き取った事を生活の中に活かす様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	折り紙、メモ帳作り、新聞紙でゴミ入れ作り、古布切りなど、声かけし作業してもらい見守り出来る事をして頂くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、職員と話し合っ介護計画を作成している。日ごろのプランに沿ってアセスメントシートに記入し職員会でモニタリングを行い支援の見直しをしている。	利用者、家族の希望や要望を聞き職員間でモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をアセスメントシートに記録している。職員会、ミーティングで職員と話し合い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	島外にいる家族には電話で、状況説明する。島内にいる家族には訪問を依頼し状況説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人で散歩する方おり、近所の方に伝えて見守りを依頼して協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に1回、都万診療所に受診介助している。隠岐病院受診の介助している方や家族に依頼する方もいる。	ほとんどの利用者が診療所の医師を受診し、定期的に受診に同行している。専門科受診は家族が同行しているが要請があれば対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職おり、毎日バイタル測定し日々観察し、定期的な受診もしている。状態の悪い時にはすぐ受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に病状を病棟に問い合わせたり、地域連携室から退院調整の連絡時には話し合いあり退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に合わせ家族や病院職員と話し合いを重ね事業所で出来る事を伝え対応している。	法人施設と連携しその都度検討しながら対応している。利用者、家族、医師と話し合い状況を見て事業所で出来る事を伝えて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で年1回救急救命の講習あり、順次参加して3、4回同じ研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	住民の方の参加もあり、3月に火災避難訓練を行った。	地区から4名の参加があり消防署指導で避難、消火訓練を実施した。役割分担や事業所内の防災機器の確認、説明等勉強をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけに気をつけゆっくり話すよう心掛けている。利用者に合わせ筆談や耳元で話をするなど対応している。	一人ひとりへの声掛けの仕方や対応を工夫し、個人の自由や好みを尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆で出掛ける際には一人一人に尋ねて、希望者と外出や買い物又は催しに出掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に出る事、希望の方には出入りを職員に伝え出掛けている。又、趣味や好きな事ができるよう援助や見守りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カット、毛染め、パーマ希望の方にはホームで毛染めをしたり、美容院へ予約して送迎をおこなっている。化粧をする方もおり、化粧品の購入に職員と一緒に掛ける事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、下膳、など利用者の方に声掛けして職員と一緒にやっている。	利用者の力を発揮してもらえるよう声掛けをして楽しい食事時間になるよう努めている。ちまきやぼた餅を作ったり、魚や野菜の差し入れもあり、利用者の好きな食べ物を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食事量は記録して状態の把握に努めている。その人の好み嫌いなものを聞き取り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けをして自分でできない人には介助し、夜は義歯のある人には義歯洗浄剤に洗ってつけて、朝に装着の介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿状態を毎日記録し状態の観察をしている。介助の必要な方にトイレ誘導し夜間帯はポータブルトイレ利用者の支援をしている。	利用者の状況をしっかり把握し、昼間はトイレでの排泄を大切に支援している。夜間は身体状況に合わせてポータブルトイレで安全、安心を第一に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を毎日記録し状態の観察をしている。便秘時には下剤を服用し排便があったか観察している。また、運動するよう声掛けをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入ってもらっている。本人の意向聞きながら入浴介助している。入りたくない人には時間や日にちをずらして入浴してもらっている。自分で洗える所は自分で洗ってもらい様子を見守り介助している。	本人の意向を聞きながら時間やタイミングをずらして誘ったり、車いすの人にはシャワー浴と足湯等個々に合わせ対応し、気持ちよく楽しめる入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房で居室内の温度調節している。夏や冬等衣類や寝具の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に薬の変更時はミーティング帳に記入し把握してもらっている。また、個人記録に薬の処方内容ははさんでおり、参照している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	聞き取り調査しコーヒーを飲みたい方、さ湯や牛乳等、希望の物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人で散歩に出る方、買物希望の方には職員が付き添って出掛ける。また、家の掃除を希望時にはボランティアの方に連絡を取り利用者の方と一緒にしてもらうこともある。	車いすの利用者が増え外出の機会も少しずつ減ってきているが、工夫をしながら家族、ボランティア、地域の協力や職員の介助で利用者の思いに添えるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持って自分でお金を出し買い物する方がいる。お金を持って安心する方もいるので本人に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って家族に連絡を取っている方、孫に手紙を書く方のはがきをポストに投函援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を玄関や洗面所に飾ったり、居室には利用者のお気に入りの飾り付けをしている。トイレに消臭剤を使い臭いに気をつけている。エアコンで温度調節をしている。	日が差し込み明るい空間でトランプするグループ、ソファーにもたれて仮眠する人、職員と談話する人と思いいいにゆったりと過ごしている。職員は居心地のよい環境となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳の場所があり、一人で又は利用者同士一緒にくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたベッド、布団、タンスなど居室に持ちこんで置いて安心して過ごせるようにしている。	自分の好きな小物や家族の写真が飾られ、仏壇に花を添え拝む人もいる。開設以来利用者は職員と一緒に掃除を行いモップかけや整頓を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、ホール、居室、トイレはバリアフリーになっていて動きやすい導線になっている。		